

日本山岳会120周年事業 越後支部企画  
猪熊隆之氏の「山岳気象セミナー」と「山の天気ライブ授業」を開催

越後支部 渡辺 茂

越後支部は、「日本山岳会120周年事業」の一環として、6月4日～5日に新潟市で猪熊隆之氏の「山岳気象セミナー（座学講習）」と「山の天気ライブ授業（フィールド講習）」を開催しました。

1日目は、新潟市黒崎市民会館1階ホールにおいて一般参加者を含め90名の参加者でした。猪熊講師は新潟県出身で県内の地理や山岳にも詳しく、親しみを感じられたこともあり、参加の皆さんは熱心に耳を傾けていました。登山ルートによる気象のリスクや気象遭難を防ぐための天気図の読み方と雲や風の確認について、新潟県山域は海が近く、海側からの風が吹いてくる風上側の山で天気が崩れるなど、遭難を防ぐための気象の変化を分かりやすく説明され学ぶことが出来ました。これまで山行前には天気予報で天候判断していましたが、天気図の読み方が如何に大事か今更ながら認識することができました。天気図の読み方は基本的なポイントを覚えれば誰でも天気の予測を立てることができると話されました。これからは一般的な天気予報は参考程度とし、天気図を読み、天気図の解読を習慣とし、今後の山行に活かしていきたいと思えます。講演後に多くの方からの質問もあり、丁寧にわかりやすく回答していただき有意義な講習会になりました。

2日目の早朝は小雨もちらつき、上空は層積雲に覆われてうす暗く心配しましたが、集合の朝8時頃から徐々に晴れ間が広がり絶好な天候に恵まれました。会場は新潟市古津八幡山標高53mの頂上付近で、参加者20名限定のフィールド講習を行いました。古津八幡山は古墳時代前期のもので、直径60メートルの円墳で北側に張り出し、かつて集落があった新津丘陵の尾根の先端に築かれた古墳です。現在は史跡公園として広い敷地が芝生で整備され、展望が開けており空を見上げられる視界良好な敵地であり、山頂からは眼下に越後平野の眺望が良く、雲の時間的変化も確認できる観天望気に最適な場所でした。数分ごとに雲が変化して風向きの変化を観察することで天気がどのように移り変わっていくか予測できることを学びました。配布資料の「これだけは覚えておきたい！危険な雲や十種雲形」については、実際に6種類の雲の動きが見られ更に詳しく観察することで、今後の天気がどのように変化するか予測できることを教わりました。これまでは黒い雲を気にしながらの登山でしたが風向きと雲の動きを意識した行動を取りたいと思えます。天気は風の流れや雲の動きにより変化することを忘れずに、上空を見上げ雲を観察し山の天気や知識や経験を身に付けたいと思えます。また、講習中に46度ハロ（日暈）やめったに観ることができない「環水平アーク」も観察することができました。フィールド講習は20名限定としたため、参加できない方から再度企画して欲しいとの強い要望がありました。

最後に猪熊講師に故郷新潟に来ていただき、有意義な講習会を受講できたことに改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。